

学部長挨拶

生命科学科 10 周年にあたって

医学部長 住本 英樹



生命科学科は、この春、10周年を迎えます。

この間における学生諸君、教員・職員の皆様を含む多くの方々の御尽力に対して、心からの敬意と謝意を表します。

九州大学医学部生命科学科は、医学を深く学んだ生命科学研究者の育成を第一の目的に掲げて、2007年（平成19年）4月1日に設置されました。この年に15名の新入生を迎え、以来毎年12～15名の学生（定員は12名）が全国から入学しています。初代の学科長（2007年～2012年）は 續 輝久 教授（基礎放射線医学分野）、2代目（2012年～2014年）は 飛松 省三 教授（臨床神経生理学分野）で、現在は3代目（2014年～現在）の 康 東天 教授（臨床検査医学分野）が学科長を務めています。そして、医学部（医学研究院）の基礎系の教員を中心に多くの先生方が、講義と実習さらには研究の指導と力を注いでこられました。特に、設置準備から立ち上げの大変な時期には、續 学科長（当時）、岩城 徹 教授（神経病理学）、飛松 教授の3名の先生方は、大変なご苦勞をなさったことと思います。改めまして、皆様に厚く御礼申し上げる次第です。

生命科学科は少人数の学科ですが、（ともすれば九州出身者が多い九州大学の中にあって、その比率も低く）真の意味で全国各地から、志を持った若者が集まっています。全国区でありながら、固い結束力をもつのも生命科学科の特徴であり大きな強みではないかと思えます。今回の10周年記念式典も、学生諸君の発案により始まり、全て学生諸君の企画・運営で行なわれています。その実行力に深い敬意を表するものです。

初年度に生命科学科に入学し、その後医学系学府医科学専攻（修士課程）、医学専攻（博士課程）と進学した諸君は、今まさに、大学院修了・博士（医学）取得の時期を迎えています。そして、その先輩達に続けと研究に励んでいる後輩諸君も多いかと思えます。諸君の努力が報われることを願ってやみません。一方で、大学院進学とは違った道を進んできた諸君、進もうとしている諸君もいるかと思えます。どのような場合においても、どうかここ生命科学科で学んだことを活かしてほしいと希望しています。

そして、生命科学科の現役の学生諸君ならびに卒業生の皆さん、まだまだ若い皆さんが、あせらず、じっくりと、素敵な人生を切り開いていけるように祈っています。

最後になりましたが、今回の記念式典にあたり、その趣旨を良く理解して御援助下さった医学研究院ならびに生体防御医学研究所の教授各位に、心から御礼申し上げます。

2017年（平成29年）3月